

幸せになるための教育を実現する会議 議事録

日 時 令和4年5月12日（木）午前9時30分～午前11時30分

場 所 401会議室

委 員 神谷、鈴木、大崎、曽根、三浦

そ の 他 市長、企画部長、学校教育課主任指導主事、企画課長

議事録作成者 企画課 内田

■委員長、副委員長について

互選により、委員長は鈴木雅貴氏、副委員長は三浦昌道氏に決定。

■本会議の役割について

○企画課長

市長は教育に力を入れることを公約で掲げています。市長が学校の教育の基本的な方針を打ち出す場合、教育大綱で定めることとなります。令和3年3月に策定した「第2次半田市教育大綱」がこれにあたります。この大綱は地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づく「総合教育会議」で教育委員会と市長が協議することとなっています。

「幸せになるための教育を実現する会議」では、市長が定める教育大綱のために提言を行う位置づけとなるため、教育委員会ではなく、市長部局である企画課が事務局を担います。ただし、具体的な事業の検討、実施は教育委員会で行うことになり、連携が不可欠であるため、オブザーバーとして学校教育課主任指導主事が会議に参加します。

■本会議の意義について

○市長

別添、「幸せになるための教育を実現する会議を設置するのにあたり」により説明委員の皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

■課題の共有と目的の設定について

○委員

子供たちが自身の幸せについて考えることで、他者への思いやりが育つきっかけになるのではないのでしょうか。

○委員長

この会議は、提言が実際の教育に反映できる点において非常に貴重な機会であると思います。この会議では、幸せとは何かを議論するのではなく、幸せは人の価値観が多様であることと同じで多様である前提で、幸せになるためにはどうゆう教育が良いのかを話し合いたいと思います。また、具体的に実施できることを提言したいと思います。

本日は、課題、問題点の共有が最大のテーマです。活発な意見交換をお願いします。現状の教育の課題等について主任指導主事から説明をお願いします。

○主任指導主事

「令和 4 年度半田市幼稚園・学校教育重点目標」は今年度、教育委員会が全小中学校に示しているものになります。重点目標の「子どもが楽しいと思える園・学校を作ろう！」、「子供が将来の夢を持てるようにしよう！」、「子どもが積極的に ICT を利活用できるようにしよう！」は裏返せば今の課題を解決するための目標です。課題は、年々不登校者が増えてきていること、夢を持っている児童・生徒が減ってきていること、GIGA スクール構想によるタブレット導入の効果的活用です。

○委員長

不登校者は他地域と比べて多いのでしょうか。

○主任指導主事

不登校者は令和 3 年度で小中学生およそ 9,000 人のうち 300 人弱、およそ 3 %となり、全国平均より多い数値です。不登校となった児童・生徒への対策は、教育相談員の配置、適応指導教室の設置など、しっかり取り組んでおり、学校生活に復帰できる子は増えており、改善の成果を上げています。しかしながら、新規の不登校者が増えていることによって総数が増加傾向となっています。新たな不登校者を増やさないことが目標です。

○委員長

教育現場の課題についてご意見ををお願いします。

○委員

日本人の幸せ感が低いのは、感覚の違いによるものです。例えば、日本人に英語ができるかを聞けば多くの人ができないと答えるでしょう。一方、外国人に日本語ができるかを聞けば、単語を知っているだけで、できると答えます。できないことに重点を置いて回答している結果であると思います。日本の教育が、これもできる、あれもできる、もっとできるというようなアドバイスしすぎに要因があるのではないのでしょうか。例えば、走り幅跳びを教える時に、日本ではどうやったら遠くに跳べるかを教えてから跳びます。さらに、跳んだあとはもっと跳べる方法をアドバイスします。海外ではアドバイスなしで跳んでみて、跳べた距離に関係なく、跳べたことを褒

めます。最初は下手かもしれませんが、褒められて好きになれば、自分で考えて最終的にはもっと上手になるのではないのでしょうか。子どもは褒められることで満足感が高まり、次への意欲につながると思います。

○委員

ティーチングとコーチングの違いだと思います。日本の指導はティーチング主導であったのではないのでしょうか。今はコーチングの重要度が高まっていると感じます。また、日本で美德とされる謙虚さよりも、自信を前面に出す人材のほうがグローバルで活躍できるのではないのでしょうか。現実には、日本の教育現場で自信満々の子供は浮いてしまう存在で違和感のある子供だったのではないのでしょうか。この違和感がなくなることが、幸せになるための教育につながると思います。

○委員

今回のこの会議は結論が決まっておらず、チャレンジしようという意欲で取り組む点で非常に期待しています。今回、教育に幸せという概念を入れたことは非常に良いことです。

今の教育現場で、教員は一所懸命取り組まれていると思いますが、視野の狭さを感じます。幸せになるということを自分の問題として、取り組み続ければよい教育につながると思います。

国などでも教育については多くの著名な方が議論し、良い提言を行っていますが、なかなか現場に浸透していません。大事なのは現場で展開されることです。今回の会議では提言するだけで終わらず、一緒になって実現するまで取り組むべきです。頑張っている学校現場と対立することなく、半田から日本の教育を変える思いで取り組みたいです。

○委員長

この会議は、概念だけをまとめて提言して終わりではいけないと思っています。まずは秋までに実現可能なことをまとめ、その後も関わっていきたいと思います。

それでは、現場で変化を感じることがあれば教えてください。

○委員

コロナで変わったと感じます。これまでは学校の取組は横並びでしたが、コロナ禍という前例がない中、それぞれの学校が現状を踏まえた上で判断することが多々あったと思います。

○委員

ビジネスでも上の指示を忠実に実行することから、一人一人を考えて良いと考えることを実行するように変わったと感じます。自らが考えることで活力と知恵が生まれます。教育においても同じことが求められているのではないのでしょうか。

○委員長

コロナは変わる良いチャンスだと思います。半田市の教育現場はどうでしょうか。

○主任指導主事

学校の最終決定権は校長が持っています。コロナ禍で、学校独自の判断が増えたのは事実です。例えば運動会の開催でも、学年ごと分けて開催する学校、保護者を入れずに開催する学校、各学校が考えて異なった感染症対策を講じました。近隣の学校と異なったことをする場合は保護者からのご意見が気になるのは事実です。違いを責めるのではなく、違いを認める風潮となれば、もっと変わっていけるのではないのでしょうか。

○委員

先生が一所懸命考えて実施することに対して、保護者の意見が壁になってしまうようであれば保護者を巻き込んで提案していく必要があるのでしょうか。

○市長

必要があれば、市が関与し、保護者も巻き込んで展開していかなければならないと考えています。

○委員

PTA でも前年度の踏襲ではつまらないと思います。保護者からのご意見も一部の声の大きい人だけの場合もあります。一部の声の大きい人の意見で違うと思うことは、しっかり説明すればよいと思います。必要であるならば、教員ではなく、学校運営委員会など第三者が説明することがあっても良いと思います。

○市長

教員が負担に感じていることを改善していくことも重要な視点であると考えています。具体的な改善策の提言があればありがたいです。

実現には 5 年、10 年かかるかもしれませんがやり遂げるのが自分の責任だと思っています。委員の皆様も続けたいと思えるぐらいやりがいのある会議としたいです。

また、学校現場におけるティーチングとコーチングについて実情を教えてください。市が今までとは違う要素の理念や目標を加えたときに負担にならないのでしょうか。

○委員

学校現場では理念・目標に基づいて動いています。違う要素の理念・目標を加わった時には、それぞれの教員が教科の授業の中で取り入れていくことになると思います。幸せになることは集団教育の中で生き方などのキャリア教育にあたり、必要なことですので取り入れていく必要があると思います。

○主任指導主事

教育現場においてティーチングもコーチングもどちらも必要な要素です。ティーチングが主に用いられる知識や技能を得る教授型授業とコーチングが主に用いられる主体的、対話的、深い学びのバランスを取らなければ学校の教育は成り立たないと思います。幸せについて考えることは必要であると思います。

○委員長

学校によって異なることがあると保護者は不満に思うでしょうか。

○委員

私は教員にお任せしている立場だと思っていますので気になりません。友人である保護者同士の話でも意見が分かれるところです。

○委員

些細なことでも電話連絡をいただくことがあり、教員はとても頑張ってくれていると思います。私たちの提案で教員の負担が増えることは避けるべきだと思います。今の仕事の精査も必要ではないでしょうか。私は地域性もあるので学校での差異は生じるものと考えています。

○委員

教員もほめてもらいたいです。批判的なご意見はしっかり伝えていただけるが、肯定的な意見は伝えていただけないことが多々あります。肯定的な意見もしっかり伝えていただけると、やりがいアップや良い軌道修正につながると思います。

○委員

子供も教員も褒められないから自己肯定感が低く満足度も低いのではないのでしょうか。ほめることが足りないと感じます。

○委員

子育てでも余裕がないとコーチングせずに○○しなさい、になります。教員も業務改善して余裕を生まないと良い教育ができないかもしれません。解決策の一つがデジタルだと思いますが、教員でもデジタル能力に差があるのも課題であると思います。

○委員長

今のところのキーワード

- ・教員も子供も褒める
- ・教員の余裕を生む
- ・各学校、教員個々の自立を促す

○委員

教員は忙しいです。業務は減らす指示なく、追加されます。また、学ぶ時間を取ることも難しく、学ぶためのシステムも確立されていません。オーストラリアで、ある曜日の午後は教員の研修日と設定され、教員の学びの時間が確保されたのをみて羨ましいと感じました。

○委員長

何か減らせる業務はないでしょうか。

○委員

学習指導要領上、教科書で教える教科を減らすことはできません。そうすると人と人とのかわかりを育てる点で重要である学芸会などの行事を減らすこととなります。

○委員

学校現場で減らせること、増やしたいこと、残さないといけないこと、で分類すると増やしたいことが人と人との係わり、残さないといけないことは教科書で教えること、減らせることは行事、でも人と人のかかわりを増やしたいと思うと行事がいる。矛盾が生じてしまう話に感じました。

○委員

過去に、先生がもっと子供に向き合う時間をつくるために負担と感じていることで議員等からの質問や、夜の親からの電話対応があり、その解消に取り組んだことがあります。今の先生方が負担に感じていることを明らかにして、この会議でその解消に取り組めたら良いと思います。

○委員長

今回の会議までに課題を考えて欲しい。

- ・教員が忙しすぎる。
 - ・学校ごとの個性が発揮しづらい。
 - ・教育現場で増やしたいこと、減らせることを考える。 など
- ⇒今回の会議で深掘する。

○委員

この会議の議論や存在はオープンに市民に伝えていくという理解でよろしかったですか。また議事録はどこに掲載しますか。

○企画課長

オープンに市民に伝えていきます。また、議事録は市のホームページで公表します。

○委員

市民に伝えようと思うと、文字が並んだ議事録は、読まれないと思います。グラフィックレコーディングなどを活用して、見てもらえるもので公開できたら良いと思います。

○委員長

考えていきましょう。わたしも、会議中にホワイトボードにまとめた程度のものを伝えていくことが良いと思います。

○企画課長

多くの市民も注目している事業と考えています。市民に伝わる工夫をするのとあわせて、しっかりとした情報を伝える議事録の必要性も感じています。また、負担軽減のために現場の教員の意見を聞いてみる必要があると感じました。可能であれば教員へのアンケートを考

えたいと思います。

<終了>